

# 校内研修について

## 1 研究主題について

### (1)

#### 研究主題

**すすんで関わり、共に学びを深める菊西っ子の育成**  
～算数科における個に応じた指導の工夫を通して～

### (2) 主題設定の理由

#### ①学校教育の今日的課題や昨年度の研究から

今、我々が生きる社会は、急速な変化の中にある。これからの子どもたちには、社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められている。

そこで、昨年度の研究では、学び合い学習を算数科の中でどのように取り入れ、主体的・対話的で深い学びにつなげていくかを研究し、課題への理解を深めたいと考えた。成果(◇)・課題(◆)は、次の通りである。

◇子どもと問答しながら、子どもの言葉でめあてを立てることで、学習に対する意欲が高まった。また、1時間の学習を振り返り、子どもの言葉でまとめをすることで、学習内容をより理解することができるようになった。

◇学び合いの時間を設定したことで、少しずつ自分の考えを広げていく姿が見られるようになってきた。

◇理解している子が、ポイントについてあえて質問し、全体の理解を深めようとする姿が見られた。また、「今のわかった?」「本当にそれでいいの?」等子どもに返すことで、分かり易い説明をしたり大事なことを押さえながら説明したりして、全体の理解が深まった。

◆発表する子どもに偏りが見られる。確認やゆさぶり等を通して全体で学習が深まるよう、教師の指導力を高めていく必要がある。

◆意識調査では、学習に向かう意欲、態度の向上があまり見られなかった。授業を支える言語環境や支持的風土作り、家庭学習の習慣化、特別支援教育の視点を生かした環境作りなどの取組を更に工夫し、継続的に進めていくことが必要である。

◆適用問題や振り返りの時間の確保が難しかった。話し合いのゴールを教師がはっきり持ったり、短時間でできる振り返りの工夫をしたりすることが必要である。

そこで、エンカウターの共通実践による支持的風土作り、高学年の自学ノートの取組に向けた家庭学習の段階的な取組、授業の構造化(時間配分や板書等)や子どもの言葉でのめあてやまとめの設定、短時間での振り返りの工夫を継続するとともに、今年度は、子どもが学び方を獲得させ、練り上げの中で学びを深めさせたいと考えた。

#### ②本校の教育目標から

本校の教育目標は、「自立し協働できる子どもの育成～安心・安全な学校作り～」である。「自立」とは、学習態度が身についた姿、「協働」とは、よりよい集団(社会)作りのために力を合わせることである。この目標を達成するためには、主体的な学びの中で、他者とのかかわり合いを通して互いの思いや考えを知り、認め合い

ながら、よりよい考えを見いだす力をつけていくことが必要である。

### ③児童の実態から

これまでのテーマ研究を通して「き・く・に・し」学習については定着が進んでおり、児童は学習の流れに見通しを持ち、学習に参加できるようになっている。また、ゆうチャレンジやNRT学力検査では、全体的に県平均や全国平均を上回っており、基礎的な学力は、個人差はあるものの一定の定着がみられる。しかし、学び合いへの意欲は低く、「進んで発表している」「絵、図、表、グラフ、話し方の例を使って根拠をもとに発表している」児童の割合は全体的に低い。めあてをしっかりと持たせ、主体的に学習する学び方を獲得させていく必要がある。

## 2 研究主題の分析

この研究主題のキーワードを次のように分析する。

### (1) 「すすんで関わり」とは

課題解決の見通しを持って自力解決に取り組み、自分の考えをしっかりとつことである。**(主体的)** ← 学び方を身につける

### (2) 「共に学びを深める」とは

展開につめるにおいて、練り上げを通して、自分にはない考え方に会ったり、考えを比べたりまとめたりして、よりよい考えに気付くことである。**(対話的・深い学び)**

### (3) 副題との関連について

本研究では、教科を算数に絞り、研究に取り組む。算数科における「個に応じた指導」の意味は次のようにとらえる。

そもそも子どもたちは、それぞれ異なる学習方法をとる者たちであり、一様の学び方ではなく、個々に合った学び方に出会えてこそ主体的な学びとなる。そこで必要になるのは、複数の学習方法から、学習者自らが選んで学んでいく学習者中心の学びである。このような学びを引き出す教師の指導方法の工夫等を「個に応じた指導の工夫」とする。

## 3 研究の具現化と構想

### (1) 研究の仮説

- 〈仮説1〉授業を構造化し、見通しを持って自力解決に取り組ませれば、課題にすすんで関わるができる子どもが育つであろう。
- 〈仮説2〉子どもが主役となる練り上げの工夫をすれば、共に学びを深める子どもが育つであろう。
- 〈仮説3〉家庭学習の改善と支持的風土作りを行えば、学習に向かう意欲が高まるだろう。

### (2) 研究の視点と内容

#### ①仮説1に関する視点

ア 授業の構造化

(ア) 子どものつぶやきからのめあてとまとめの設定

(イ) 時間配分の工夫

- イ 板書の構造化
  - (ア) カードを使った板書構成
  - (イ) 授業の流れの提示

## ②仮説 2 に関する視点

- ア 考えを持たせるための導入の工夫
- イ 自由交流の工夫
- ウ 学年に応じた話し方の工夫
- エ 発問の工夫

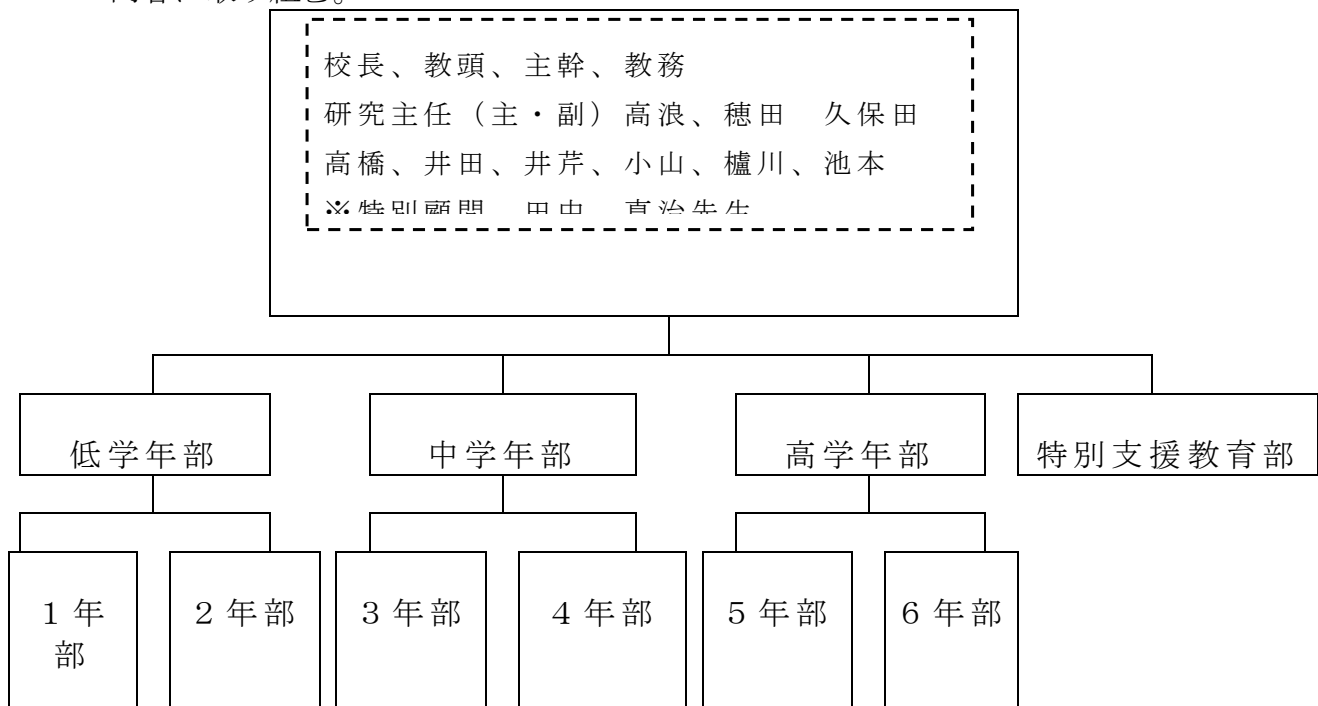
## ③ 仮説 3 に関する視点

- ア 家庭学習の工夫と系統化
- イ 支持的風土作りの工夫（グループエンカウターの取組）

# (3) 研究組織と活動内容

## ①研究組織

研究推進委員会、低中高学年部会、各学年部会、特別支援部会を設定して、研究内容に取り組む。



## ②研究推進委員会及び各部会の活動内容

| 各 部 会    | 活 動 内 容                                                                                                                                                                                                                      |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研究推進委員会  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導案の書き方提案</li> <li>・ ノート、板書について提案、協議</li> <li>・ 育てていきたい学力について協議、決定</li> <li>・ グループエンカウター提案</li> <li>・ 家庭学習アンケート検討・決定</li> <li>・ 児童・指導に関するアンケート検討・決定</li> <li>・ 教室、廊下掲示提案</li> </ul> |
| 低・中・高学年部 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業研究（大研）</li> <li>・ 家庭学習計画・決定</li> </ul>                                                                                                                                            |

|       | 指導の系統→時期、選定基準、数、方法等                                                                                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 各学年部  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭学習の推進、改善、アンケート印刷、集計</li> <li>・ 学習（児童）・指導（教師）に関するアンケート印刷・集計</li> <li>・ 県学調、全学調結果分析</li> <li>・ 研究授業の分析</li> <li>・ 学習コーナー掲示物作成、解答表示等</li> </ul> |
| 特別支援部 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理論研</li> <li>・ 授業評価シート、実践の記録保管</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>                                                                  |